

# 沼田浄水場の更新計画



国道120号から見える印象的な建物

洗浄用高架水槽  
53年経過  
昭和43年更新

ろ過池  
53年経過  
昭和43年更新

中区高架水槽  
40年経過  
昭和56年更新

沈殿池  
43年経過  
昭和53年更新

着水井  
53年経過  
昭和43年更新

沼田浄水場  
下久屋町915番地  
沼田ICから白沢町方面に約1.3km、国道120号沿いに位置します。建設当初（大正14年頃）は、辺り一面、桑畑でした。

沈殿池  
53年経過  
昭和43年更新

圧送ポンプ池  
43年経過  
昭和53年更新

浄水池  
96年経過  
大正14年更新

非常用貯水池  
96年経過  
大正14年更新

## 浄水場の老朽化

**耐用年数が迫り施設の老朽化が顕著**

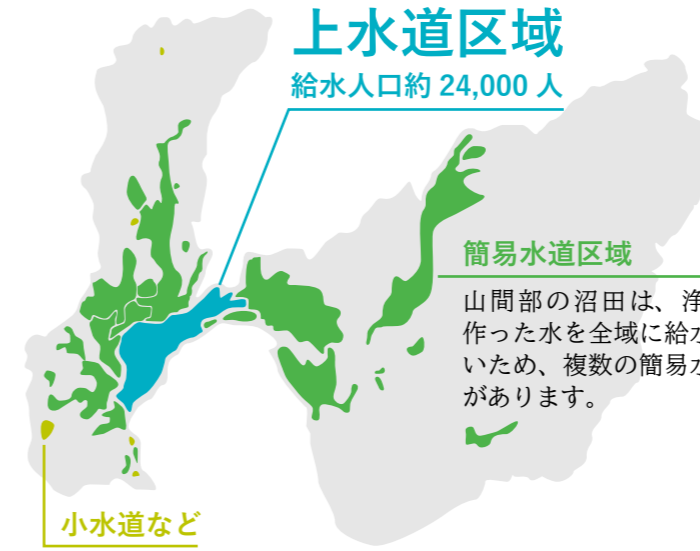
沼田浄水場は、昭和43年（1968）の第4期拡張事業から昭和53年（1978）の第5期拡張事業において整備された施設で構成されており、法定耐用年数（浄水施設構築物60年、電気・機械類15年）が迫りつつあります。

このように、建設から歳月を経て老朽化が進行したことにより、修繕費は年々増加し、交換部品の製造が終了するなど、修繕自体も困難となりつつあります。



大正時代のレンガ造り（非常用貯水池）

このままでは、将来、安全な水の供給に支障をきたすことになりかねないため、構築物の耐用年数（60年）を待つことなく、一刻も早い建て替えが必要です。



大正14年に供用を開始した上水道沼田浄水場は、老朽化の進行により早急な更新（建て替え）が必要です

人口の半数以上を支えるライフライン

市街地への水の供給が課題であった本市は、上水道の整備では全国でも先駆けでした。大正14年（1925）に県内では高崎市に次ぐ2番目、全国でも50番目の上水道として供用を開始しました。

現在は、沼田市街地の人口約2万4千人に水を供給しており、これは、本市人口（約4万5千人）の半数を上回ります。

しかし今、浄水場は、老朽化の進行により建て替えを余儀なくされています。

中区高架水槽 40年経過 昭和56年更新	ろ過池 43年経過 昭和53年更新	沈殿池 43年経過 昭和53年更新	着水井・水力発電 43年経過 昭和53年更新
ろ過池 53年経過 昭和43年更新	ろ過池 53年経過 昭和43年更新	沈殿池 53年経過 昭和43年更新	着水井 53年経過 昭和43年更新
浄水池 96年経過 大正14年更新	圧送ポンプ池 43年経過 昭和53年更新	非常用貯水池 96年経過 大正14年更新	濃縮槽・排泥池・排水池 43年経過 昭和53年更新

全施設が **40~96** 年経過  
※令和3年度時点